

三重県版アコヤタイムライン(ver. 1)

農林水産部 (令和3年4月14日)

■各タイムラインステージにおける行動項目は、確認すべき項目という視点で記載している。必ず実施することを示すものではない。また、行動項目の実施については、順番にとらわれない臨機応変な対応が求められる場合があるので、留意が必要となる。

■「ゼロ・アワー」の定義
「アコヤガイのへい死の発生が想定される時点」

■対象 : 令和元年から発生したアコヤガイのへい死
■想定海水温: 海水温18～32℃ ※前提条件: 常時餌不

■凡例: ◎ ⇒ 主たるセクション、または情報を発信する立場
○ ⇒ 関係セクション、または情報を共有する立場

いつ(何時)		何を(行動)			誰が(行動主体)					
目安となる海水温	想定される状況等	項目	行動項目	行動内容	水産振興課 (農林水産総務課)	水産研究所	各真珠漁協	志摩市 南伊勢町	伊勢水産室	真珠養殖業者
共通項目										
1 海水温の予測 水産研究所が海水温を予測 ◎										
2 アコヤタイムライン運用 (管理) 水産振興課がアコヤタイムラインの進捗を管理 ◎										
3 (検討) 予測した海水温やへい死の通報数を元に、水産振興課と水産研究所がアコヤタイムラインステージ移行の検討 ◎										
4 (決定) 水産振興課がアコヤタイムラインの発動やステージ移行を決定 ◎										
5 (周知) 水産研究所がSNSやHP等を活用し、 真珠養殖業者 や 真珠漁協 、 市町等 にアコヤタイムライン発動やステージ移行に伴う周知、貝の状況確認を依頼 ○ ◎ ○ ○ ○ ○										
6 海水温、餌量等の情報整理、「アコヤ養殖環境情報」提供 水産研究所が原則週1回、海水温、餌量、黒潮流路、気象等の情報を収集、整理し、 真珠養殖業者 にSNSやHP等を活用した情報提供 ◎ ○ ○ ○ ○ ○										
7 生産現場の巡回 水産研究所や伊勢水産室は週1回、生産現場を巡回し、貝の成長(貝殻形成力、付着力等)やへい死等情報を収集 ○ ◎ ○ ○ ○ ○										
8 問い合わせ対応・情報提供 報道機関や真珠養殖業者からの問い合わせには、水産振興課と水産研究所が対応(随時) ◎ ◎ ○ ○ ○ ○										
9 適正養殖管理の徹底 真珠養殖業者 は、「真珠適正養殖管理マニュアル」及び「ポケット版マニュアル」に基づき適正養殖管理を徹底 ○ ◎ ○ ○ ○ ○										
本格的な稚貝飼育が開始される時点		【貝の状態】 ○貝殻形成力の増大 ○付着力の増大 【養殖作業】 4月～ ○稚貝の飼育管理の開始 ○挿核作業の開始								
タイムラインステージ1(準備段階) 【発動条件】本格的な稚貝飼育が開始される時点 (参考とするトリガー情報) □黒潮流路 □気温										
10 貝(稚貝、母貝、挿核貝)の海面飼育に関する情報共有 真珠養殖業者 は稚貝の変調(急にカゴの底に落ちる等)やへい死があれば水産研究所に通報 ○ ○ ○ ○ ○ ◎										
11 ストレス緩和対策の周知 真珠養殖業者 は、ストレス緩和対策(深吊り、目合の大きなカゴへ収容。収容数の減少。沖で飼育。ストレス作業を控える。振動緩和のため、超スロー航行。)に努める ○ ○ ○ ○ ○ ◎										
12 【通報があった場合】へい死等の確認 水産研究所や伊勢水産室がへい死等を確認(1系統の稚貝が50%以上へい死した真珠養殖業者が1件あった場合、次ステージ移行を検討) ○ ◎ ○ ○ ○ ◎										
予測海水温23℃以上		【貝の状態】 ○貝殻形成力の最大 ○付着力の最大 【養殖作業】 ○挿核作業の本格実施 ○貝の飼育管理の本格実施								
タイムラインステージ2(早期警戒) 【移行条件】英虞湾奥(水深2m)の海水温が23℃になる予測、またはへい死の発生するおそれがあることいずれか (参考とするトリガー情報) □黒潮流路 □気温 □通報に基づき水産研究所が確認し、所有いづれかの系統の稚貝が50%以上へい死した真珠養殖業者が1件以上確認された場合										
13 行動準備体制 水産振興課が真珠養殖対策会議を開催し、行動の確認 ◎ ○ ○ ○ ○ ○										
14 ストレス緩和対策の徹底 真珠養殖業者 は、ストレス緩和対策(深吊り、目合の大きなカゴへ収容。収容数の減少。沖で飼育。ストレス作業を控える。振動緩和のため、超スロー航行。)を徹底する ○ ○ ◎ ○ ○ ◎										
15 貝(稚貝、母貝、挿核貝)の海面飼育に関する情報共有 真珠養殖業者 は稚貝の変調(急にカゴの底に落ちる等)やへい死があれば水産研究所に通報 ○ ○ ○ ○ ○ ◎										
16 【通報があった場合】へい死等の確認 水産研究所や伊勢水産室がへい死等を確認(1系統の稚貝が50%以上へい死した真珠養殖業者が10件以上になった場合、次ステージ移行を検討) ○ ◎ ○ ○ ○ ◎										
予測海水温28℃以上		【貝の状態】 ○ろ過水量の減少 ○急激な代謝量の増大 【養殖作業】 ○挿核作業の本格実施 ○貝の飼育管理の本格実施								
タイムラインステージ3(警戒) 【移行条件】英虞湾奥(水深2m)の海水温が28℃になる予測、またはへい死の発生するおそれがさらに高まることいずれか (参考とするトリガー情報) □黒潮流路 □気温 □通報に基づき水産研究所が確認し、所有いづれかの系統の稚貝が50%以上へい死した真珠養殖業者が10件以上確認された場合										
17 緊急対応準備体制 水産振興課が真珠養殖対策会議を開催、行動の確認 ◎ ○ ○ ○ ○ ○										
18 警戒情報の発信 水産研究所が警戒情報(ストレス作業中止、稚貝移動禁止)を 真珠養殖業者 等に発信 ○ ◎ ○ ○ ○ ○										
19 警戒情報を受けた対応 真珠養殖業者 は貝にとってストレスとなる作業を中止。稚貝の漁場間の移動しない。※貝掃除やカゴ替え等、貝にとってストレスとなる作業であっても貝を触らないといけない場合は、この限りではない。 ◎ ○ ○ ○ ○ ◎										
20 貝(稚貝、母貝、挿核貝)の海面飼育に関する情報共有 水産研究所や伊勢水産室、 市町 がへい死等調査を 真珠養殖業者 に対して実施し、結果を報告(危機管理課にも報告) ◎ ◎ ○ ○ ○ ○										
21 真珠養殖業者 は稚貝の変調(急にカゴの底に落ちる等)やへい死があれば水産研究所に通報 ○ ○ ○ ○ ○ ◎										
22 【通報があった場合】へい死等の確認 水産研究所や伊勢水産室、 市町 がへい死等を確認(所有稚貝全体の50%以上がへい死した組合員が組合に30%以上確認された場合、次ステージ移行を検討) ○ ◎ ○ ○ ◎ ◎										
		【貝の状態】 ○稚貝がカゴ底に急に落下 ○稚貝のへい死が急に増加 ○2年貝、挿核貝で外套膜萎縮症状発生 の通報が増加								
緊急対応 【移行条件】へい死の発生するおそれが著しく大きくなること (参考とするトリガー情報) □通報に基づき水産研究所が確認し、所有稚貝全体の50%以上がへい死した組合員が組合に30%以上確認された場合										
23 情報共有、新たな対策の検討 水産振興課が真珠養殖対策会議を開催、今後の対策の協議 ◎ ○ ○ ○ ○ ○										
24 警戒情報を受けた対応の徹底 真珠養殖業者 は貝にとってストレスとなる作業を中止。稚貝の漁場間の移動しない。※貝掃除やカゴ替え等、貝にとってストレスとなる作業であっても貝を触らないといけない場合は、この限りではない。 ◎ ○ ◎ ○ ○ ◎										
25 貝(稚貝、母貝、挿核貝)の海面飼育に関する情報共有 水産研究所や伊勢水産室、 市町 がへい死等調査を 真珠養殖業者 に対して実施し、結果を報告(危機管理課にも報告) ◎ ◎ ○ ◎ ◎ ○										
実測海水温28℃以下		(海水温28℃以下)実測値 ○警戒解除の検討 (海水温20℃まで)実測値 ○ストレス緩和対策の徹底								
タイムラインステージ0(解除) 【警戒解除条件】英虞湾奥(水深2m)の海水温28℃以下になった 【全解除条件】英虞湾奥(水深2m)の海水温20℃以下かつへい死通報数が無いこと (参考とするトリガー情報) □黒潮流路 □気温 □水産研究所に稚貝の変調やへい死の通報数(0件)										
26 警戒解除の検討 水産振興課が真珠養殖対策会議を開催し、警戒解除の検討 ◎ ○ ○ ○ ○ ○										
27 警戒解除の決定 水産振興課が警戒解除の決定(危機管理課に報告) ◎ ○ ○ ○ ○ ○										
28 警戒解除の周知 水産研究所がSNSやHP等を活用し、 真珠養殖業者 や 真珠漁協 、 市町等 に警戒解除の周知 ○ ◎ ○ ○ ○ ○										
29 ストレス緩和対策の周知 真珠養殖業者 は、海水温が20℃以下になるまで、引き続き貝にとってストレスとなる作業を極力控える ○ ○ ○ ○ ◎										